

産業福祉マネジメント学科 卒業論文の評価基準

I. 評価の項目と基準

卒業論文の評価は、「学位授与の方針」を踏まえて「論文」、「研究過程における取組み」、「口述試問」の 3 項目をもって実施する。

各々の評価基準は、以下のとおりとする。

1. 「論文」の評価基準

以下の項目のすべてが満たされていること。

- ① 本学の『STUDENT HANDBOOK』の「卒業論文」に記載されている様式に則している。
- ② 研究の主題及び副題、構成が適切である。
- ③ 研究内容に則して課題への問題意識、研究の目的及び方法が明確に示されている。
- ④ 研究課題の内容解明の過程が具体的に示されている。
- ⑤ 調査、事例研究、文献研究などで得られた結果についての分析及び考察が適切に示されている。
- ⑥ 研究で得られた結論に妥当性があり、簡潔にまとめられている。
- ⑦ 文章が、文法、用語、表現ともに適切であり、論理的である。
- ⑧ 図、表がある場合、それらの形式、内容が適切である。
- ⑨ 引用、参考文献が、適切な方法で表示されている。
- ⑩ 研究倫理について、適切な配慮が行われている。

2. 「研究過程における取組み」の評価基準

以下の項目を各々“A 適切” ”B 不適切” で評価。

- ① 研究課題に対する理解度
- ② 計画性、実行能力
- ③ 研究への取り組み姿勢

3. 「口述試問」の評価基準

以下の項目を各々“A 適切” ”B 不適切” で評価。

- ① 質問に対する理解度と回答の適切さ
- ② プレゼンテーション技術

II. 評価方法

主査と副査の複数教員は、上記 1.2.3 の評価基準をもとに主査と副査の合議によって可否を判定し、評価点を決める。